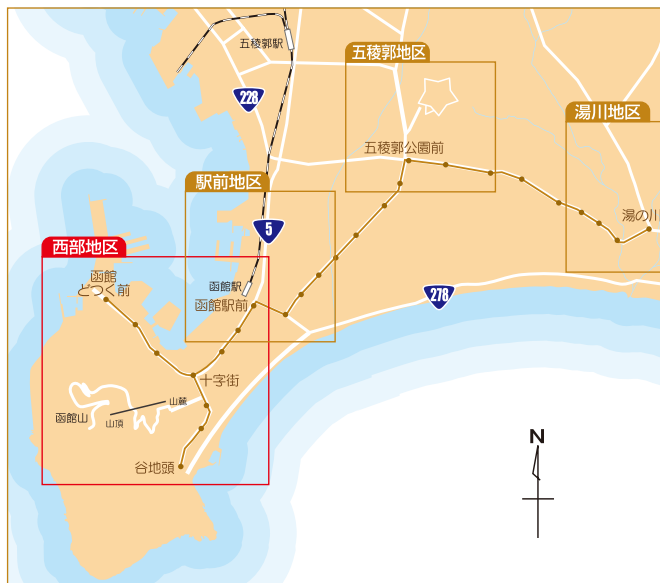


函館全体エリアマップ



西部地区



スタート地点までのアクセス

JR函館駅から1.6km (徒歩22分)
市電 (函館駅前より谷地頭行き) 8分

函館 知ってる？ 知ってる？

函館の坂～青柳坂～

青柳町へと続く坂であったことからこの名称が付けられていますが、聖天様 (大聖歓喜天) を祀っている天台宗天祐寺があることから「聖天 (しょうでん) 坂」と呼ばれたり、昔は坂の上に春日町があったことから「春日坂」とも呼ばれていました。ちなみに天祐寺の境内には七福神の一人・布袋尊が祀られており、函館山七福神巡りの7寺社の一つとなっています。

※函館山七福神とは巖島神社・弁財天、称名寺・毘沙門天、実行寺・大黒天、船魂神社・福祿寿、高田屋恵比寿神社・恵比寿、天祐寺・布袋尊、住三吉神社・寿老人です。



函館市電路線図

湯の川～十字街間は最短6分間隔で運転しています。



お得な！市電1日乗車券販売中！ 大人800円・小人400円

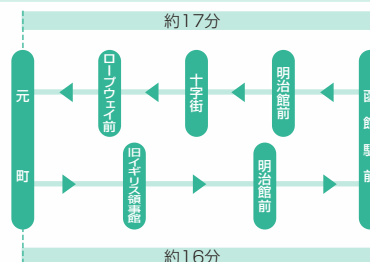
お求めは車内のほか、沿線の一部ホテル、コンビニなどでどうぞ！

【函館市企業局】 函館市駒場町15番1号 TEL.0138-32-1730

<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014012100939/>

ケータイから各電停の時刻表も見られる！

「元町・ベイエリア周遊号」元町観光にとっても便利な循環バス (バス停は主な停留所を記載) 「元町・ベイエリア周遊号」をご利用下さい。



大人250円・小人130円

函館バス専用1日乗車券 (カンパス) ※電子チケットのみ

大人1,600円～・小人800円～



スマホ乗車券の
ご購入はこちらから
DohNa!!

【函館バス株式会社】

函館営業所 / 函館市高砂町10番1号
TEL.0138-51-3135



函館市公式 観光情報サイト「はこぶら」
<https://www.hakobura.jp/>



発行・お問合せ先



函館市観光部

〒040-8666 北海道函館市東雲町4番13号
TEL.0138-21-3323

※2026年6月現在の情報です。使用できる施設・価格等が変更になる場合がございます。

(2026年7月発行)

ひと

5

函館 まちあるきマップ

歌人石川啄木が魅せられた函館
～啄木の足跡で「そっと句を詠む」～

所要時間 90分 距離 2.8km 消費カロリー 270kcal

- ・旧入村質店 (現茶房ひし伊)
- ・石川啄木居住地跡 (青柳町)
- ・石川啄木の歌碑 (函館公園内)
- ・新善光寺 (青柳町)
- ・東海山地蔵堂
- ・石川啄木一族の墓
- ・宮崎家一族之奥城
- ・与謝野寛、晶子の歌碑

地域でつくる
小さな旅
優秀プログラム



1 旧入村質店 (現茶房ひし伊)



啄木夫人節子が通った質店。節子は、行李(こうり)ごと呉服を入村質店へ質入。行李は、そのまま流れそうになったため、後日、義弟宮崎郁雨が請け出した。

2 石川啄木居住地跡



詩人石川啄木が、家族とともに暮らした青柳町の借家があった場所。函館では、文芸結社「苜蓿社」(ぼくしゅくしゃ)の同人達と幸せな時間を過ごし、故郷から呼び寄せた家族とともに新生活を送っていた。不幸にも明治40年(1907)の大火により、勤め先の弥生尋常小学校や函館日日新聞社が焼けてしまい、新たな職を求めて札幌へ旅立った。

3 新善光寺



啄木は、函館の文芸結社苜蓿社に入り同人雑誌「紅苜蓿」(べにまごやし)で「乞食と語る」という題の体験記を執筆することになった。啄木は、函館に来たばかりと辞退を申し出たが許されず、「寺に行けば乞食に会えるだろう」と思い同寺を訪ねた。

4 東海山地蔵堂



山号の東海山は「東海の小島の磯の白砂にわれ泣きぬれて蟹とたはむる」にちなんだもの。毎年啄木の命日である4月13日に啄木忌が開催されており、平成23年(2011)は100回忌を迎えた。

5 石川啄木一族の墓



啄木と妻節子、愛児、両親らが眠る墓。啄木は明治45年(1912)4月に満26歳で短い生涯を閉じ、その遺骨はいったんは浅草の等光寺に預けられたが、節子夫人の希望で遺骨は函館に移され大正2年(1913)、啄木の愛した立待岬に墓碑が建てられた。現在の墓は、大正15年(1926)に義弟宮崎郁雨らによって建立されたもの。墓石には、啄木自筆の歌碑が刻まれている。「東海の 小島の磯の 白砂に われ泣きぬれて 蟹とたはむる」

6 宮崎家一族之奥城(墓)



宮崎郁雨は、明治18年(1885)新潟県に生まれる。その後、一家で来函し、明治39年(1906)文芸結社苜蓿社ができると、その同人となった。翌40年(1907)啄木が来函後は、物心両面にわたって暖かい援助を続け、同42年(1909)啄木の妻節子の妹堀合フキと結婚した。郁雨は、家業(味噌製造業)を継ぐかたわら、短歌づくりを続け、昭和37年(1962)に亡くなった。墓の右隣にある歌碑は、昭和43年(1968)函館図書裡会が建立。「踊躍(まんさん)と 夜道をたどる 淋しさよ 酒はひとりし 飲むものならず」

7 与謝野寛・晶子の歌碑



昭和6年(1931)に与謝野寛・晶子夫妻が来函の折に詠んだ歌が刻まれている。この歌から、与謝野夫妻が、函館で啄木の義弟宮崎郁雨や、当時啄木資料の保存に尽力した函館図書館長・岡田健蔵らと親交をあためていた様子が伝わってくる。「浜菊を 郁雨が引きて 根に添ふる 立待岬の 岩かげの土」 与謝野寛 「啄木の 草稿岡田先生の 顔も忘れじ はこだてのこと」 与謝野晶子

歌人石川啄木が魅せられた函館 ～啄木の足跡で「そっと句を詠む」～

所要時間 90分 距離 2.8km 消費カロリー 270kcal ※消費カロリーはおおよその目安です。

